

医心 伝心

運動器検診の現状

富山県医師会理事 道振 義治

平成28年に学校の検診に運動器検診が追加され8年が経過しました。当初は混乱がありましたが順調に推移していると思っています。側弯のみならず腰椎分離症、X脚、扁平足、スポーツ障害（野球肘、大腿骨頭すべり症、疲労骨折など）が多数発見され更なる悪化を防止できたのではないかと考えています。

ただ最近、小中学校の検診で上半身裸になることに児童・生徒、保護者からの異議が増え、教育委員会に着衣を可能とするようにと署名を集め請願する動きがいくつかの府県で起きています。これに配慮して文科省は「正確な診察に支障のない範囲で原則上半身裸ではなく体操服・タオルなどで体を覆うなど、子どものプライバシーや心情に配慮するよう」全国に通知しました。また診察の際、囲いなどで他の児童・生徒から体を見えないようにし、同性の教諭が立ち会うようななどを例示しています。

しかし私も検診に携わる者としては、上半身裸を求める理由は運動器検診以外に皮膚の状態のチェック（アトピー性皮膚炎、いじめ・虐待の有無も含めて）もあり、着衣ではなかなか難しいといえます。また、小児科・内科学学校医の立場からは体操服などの上からは心疾患の見逃しになりうると感じているように見受けられます。

島根県では側弯症の発見頻度が、体操着を着ていた場合の発見率は0.5%、タンクトップなどの下着の場合の発見率は2.8%と明らかに高率でした。いくつかの県で着衣下で側弯症の発見が遅れ訴訟になり、校医、学校が敗訴になっていることも忘れてはならないと思います。

富山県では運動器検診が始まる前に、県教育委員会、養護教諭代表と担当理事である私が話し合いを続け運動器検診のマニュアルを作成し、その

中で保護者への事前の案内文を作成しました。内容は

- ① 体操着・Tシャツは不可、キャミソールまたは学校が用意した前かけを使用
- ② パーテーションで検診する生徒と待機児童を区分する
- ③ 女性の養護教諭が医師をサポートする
- ④ 同性の教諭が生徒をサポートする

というものです。当初から保護者に渡していたので特にトラブルには至っていません。

側弯の発見率を全国的にみると、運動器検診前では小学校では0.36%、中学校では0.80%、高校では0.62%でしたが、運動器検診が始まった後では、小学校1.16%、中学校2.95%、高校2.68%と明らかに増加し効果があったと思います。

検診で側弯症が疑われた場合は、整形外科を受診しX線撮影画像で確認する必要があります。本人・保護者には早期発見が大事だと知っていただきたいと思います。

着衣の問題もあり、見逃しをしないという意味でモアレ（3Dバックスキャナーなど）を使用する地域が増加（10都府県）しています。結果は視診のみの検診に比べ各段に発見率が増加しています。当県にも導入を検討するかのアナウンスが文科省からありましたが、機器が高額であること、近隣県で導入されていないとのことで今回は見送りになりましたが、導入されればよりスムーズな検診につながると思います。

運動器検診における問題点をいくつか上げさせていただきましたが、すぐに解決されるとは思っていません。校医と学校・保護者が密に連絡を取り、お互いが信頼することで生徒の不安感を取り除いてスムーズに検診が行われる環境ができると考えています。